

規格を満たしておりますので、サージカルマスクという名称で出てるものにつきましては問題はないというふうに考えております。

○町田義昭議長 6番、蒲生光男議員。

○6番 蒲生光男議員 このモースガードマスクというのは、0.1ミクロン微粒子を99%カットする特殊フィルターを使用したマスクというふうにあるようですが、ここまでは必要ないけれども、このサージカルマスクの場合だと、細菌遮へい率95%以上というふうに書いてありましたんで、こちら辺が一番適当だということになるんでしょうかね。値段の方をちょっと調べてなかったんでわかりませんが、値段も手頃で、こういう遮へい率があるというマスクがもっとほかに各メーカーから出てるのかどうかかわかりませんが、そういったことを含めて、市民の方に情報提供をしていただくようお願いしたいなというふうに思うんですよ。

ツルハに昨日行って、入り口に1リッターの消毒液があったんで、「これ買えるか」って言ったら、「ありますからどうぞ」ってんで、見てみたら、値段が3,800円、4,000円近いんですよ。さすがに1リッターも要らないし、4,000円も出してどうかなというふうに思ってしまうものですから、消毒剤についても、やっぱり手ごろでこちら辺がよさそうだというあたりのもがもしあれば、情報提供していただくようお願いをさせていただいて、なるべく長井市における新型インフルエンザの集団発生が起こって、さまざまな市民活動に悪影響が出ないように、対策をとっていただくようお願いを申し上げまして、質問を終わります。ありがとうございました。

渋谷佐輔議員の質問

○町田義昭議長 次に、順位2番、議席番号9番、渋谷佐輔議員。

(9番渋谷佐輔議員登壇)

○9番 渋谷佐輔議員 おはようございます。

さきの衆議院選においては、まさに政権交代が実現したわけでございます。私のブログにも、「国民の生活が苦しいことの結果です」というコメントが寄せられました。私も気持ちを引き締めて、これからの政局に務めを果たさなければならぬと思っております。

さて、質問に入りますが、1つ目の急速なナラ枯れへの対策ということで、農林課長にお伺いします。

昨年的一般質問でも取り上げましたが、まさかこんなに急激に蔓延するとは私も思いませんでした。昨年の答弁では、「21年度から不伐の森など保全すべきエリア、危険箇所などを中心に、国庫補助による防除も検討する必要がある」と伺いました。どのような対策を講じられたのか、結果はどうでしたか。

また、現状のナラ枯れ現象、この地域だけではなく、最上・村山地域でも同じような現象が見受けられました。県当局や森林管理署ではどのような対策がなされているのか、情報をお聞かせいただきたいと思えます。

「緑の長井の標榜がしにくくなったなあ」と、市民からはしようがないな、あきらめモード、あるいは「山を森林を森を見放してきた天罰だ」というような厳しい声も寄せられます。豊かな緑が失われつつあるのは悲しいことです。改めて里山の利活用、森林資源の利活用、プラス思考の発想で、ご所見があったらお聞かせ願いたいと思えます。

次に、あやめ公園の昨日・今日・明日についてであります。

(1)、(2)、(6)、(7)は市長にお願いします。3番、4番、5番は商工観光課長にお願いします。

+

この質問の背景には、あやめまつりが始まってから、私ひよいと公園を訪れました。受付のお嬢さんから、早速厳しい提言をいただきました。「いいところ来た、議員さん、話聞いてけろ」と。もう速射砲のごとくいろいろいただきました。そのことについて、そのほかいろんな人からご意見をちょうだいしました。約85点ほどの話題になりました。それは商工観光課長にもお渡ししてございますので、後ほどそれについてご答弁を賜りたいと思います。

このあやめ公園は、明治43年7月、この土地に住む金田勝見さんという人が、茶店の、茶店といえますからかなりゆとりのある人だったとは思いますが、茶店の西にある杉林を開墾し、5アールの畑にアヤメを植えたことから始まったと聞いております。以来、長井町の公園として、幾多の変遷をたどってきました。今日、100年の歴史を顧みるとき、先人、先輩たちの苦勞や努力を無にしてはいけなないと、しみじみ思うところであります。

山形県一番の公園とたたえられ、長井駅からは長蛇の列が続いたと言われます。栄華をきわめた時代もあったことでしょう。おぼろげながら、自分も青春時代を振り返れば、にぎわいと活気、かすかなアバンチュールに魅せられて、公園に足を運んだことを思い起こされます。公園の存在は、元気の源であり、情報の発信地であったのかもしれませんが。だから、人々はそのによりどころを求めたのかもしれませんが。

さて、昨今の社会情勢は、対面販売からネット販売に変わったと同じように、極めて打算的な冷ややかな世の中になったな。よりどころを求めて人が集まるということは希有に等しいと思われまふ。長井市におけるあやめ公園の存在は、はかり知れないものがあります。あやめ公園は産業資産だと評価する人、学術資産だと評価する人、依然としてほっとするいやしの空間だと絶賛する人もおります。これからのその有

利性を生かして、長井市の地域活性化、地域経済活性化に結びつけることは、大切な視点に置かれていると思います。

市長も施政方針の中で、公園や自然空間を生かした地域産業として観光によるまちづくりを重点施策に掲げておられます。ここに来て、あやめ公園の存在は生かし切れていない、もったいないというのが、市民感情として評価されております。あやめ公園の持つ多様な意義を施策の中でこうして活用したい、このように維持していきたい、市長の所見を伺いたいと思います。

2つ目のまつりの開催目的は。

古き時代を知る人は、「あやめまつりはすごいものだった」と、よく耳にします。祭りって何だろう。活力の源だったことは、先ほども触れました。うきうきして、わくわくして、そわそわして、ちょっとおしゃれして、行き交う人と合縁奇縁をかすかに求めつつ、雑踏の中へ自分を染めていったのです。そんな時代がありました。

今はどうでしょうか。祭りは一瞬の1コマで評価し、次のステージを待つという現象です。ちなみに、祭りはいろんな表情があるわけです。あやめまつりのように、ユリ、ダリヤ、菊、バラなど花をモチーフにした祭りもあります。また、鎮守様のお祭りのように、興業をかけても見てる人はわずかなのに、境内に獅子が入ってくると、どこからともなく黒山の人手が輪をつくる。そして、警護と獅子の力比べで、上げ獅子となれば、みんな拍手をして喜ぶと。

また、新庄まつりや青森ねぶたのように、町内を練り歩き、豪華けんらんさを鼓舞するもの、七夕や花火など、彩りによって見る人を楽しませるものなど、祭りにも顔とねらいがあると思います。祭りの媒体にお店屋さんが登場します。お店屋さんは、お見せする、そして選んでもらう、買ってもらう、そこで商いが生まれる。商いは利益を得なければなりません。双方がうま

くバランスがとれて、祭りの成功と言えるでしょう。

アヤメの持つ魅力、そこに集う人々が触れ合っていて、喜びを共有できる、そういうあやめまつりであってほしいと思います。祭りは、顔はアヤメとねらいは商い。イコール開催目的と考えますが、市長の所見を伺いたいと思います。

次に、商工観光課長には、前段、市民の方から寄せられた声を箇条書きにしてお伝えしておきました。載せられたことは、近視眼的な部分から将来を想定してのご意見であり、注視すべきことであると思います。

まず、公園の管理課題について。1つは、「アヤメの花もいいけど、松の木もすばらしい。これじゃあもったいない」と言われりゃがっかりだという声がありました。一方、公園のすばらしいのは、樹木の歴史を感じるということです。

2つ目は、アヤメの大切な管理時期に、桜やツツジ、黒獅子といった祭りに手をとられ、思うような肥培管理ができない。当然、あやめまつりには支障を来しますということ。

3つ目は、ボランティアで株分けに参加しましたが、暗い雰囲気の中で、黙々と時間が過ぎた。非常に寂しかった。市外からも見えられておったが、どんな感想をお持ちで帰ったんだろうねということでした。

4つ目は、ボランティアといえば聞こえはよいが、非常に人数の問題、時間の問題、作業の量の問題、いろいろアドバイスする側としては課題が多いということでした。

5つ目には、除草作業には、企業や地区や学校や組織、団体をお願いしてはどうかと。もちろん市職員の方にも手伝っていただきたいなど希望が寄せられました。

6つ目は、公園内の川の流れ、竹林付近のにおい、株下のビニールの被覆、依然として変わらない、何とかならないものかと。

公園の課題管理については、はしょって申し上げます。

次に、祭りの企画運営課題について。

1つは、出入り口の3カ所は本当に必要かと。

2つ目は、共通入園券には問題がある。

3つ目、入園券700円は高い。加えて、市民の入園者が少ない。したがって、無料券はやめてほしいと、声でした。

4つ目は、祭りの雰囲気が暗いと。お祭りですから、音楽を流すわけですが、隣近所から音楽がうるさいと言われたそうです。そして、曲も2曲だけ、静かな曲ですから、本当に暗いイメージだという声でした。

5番目は、物産館に元気がないと。多分、客足が鈍っているせいかもしれないということでした。

6番目は、観光バスが極端に少なかった。訪れたとしても、滞在時間が非常に短い。なぜか、声でした。

7番目は、アヤメ苗の販売が2カ所で行われている。同じところでなぜできないのかと、疑問でした。

8番目は、ドライバーの待合所、無料休憩所、会館2階などが本当に閑散として、生かされていないという声でした。

企画運営課題については以上のようにして、5番目、課題に対して、行政と観光協会の連携、協調についてでございます。

1つは、長井のアヤメは公園の歴史、花のよさで説明は要らないが、祭りは楽しんでもらう、参加してもらう、お金を落としてもらうではないか。市と協会がお互いに相まみえる、胸襟を開いて早急に課題解決に努めてほしいと。

2つ目は、水上ステージが全く生かされていない。したがって、あやめ愛好会の展示場が陰の方ではもったいない。もっと見えるところで飾ってほしい。双方で検討してはどうか。

3つ目は、祭りの期間が長いのではないかと。

+

エージェントの都合であれば、開花をコントロールする方法はあります。どうですかと、でした。

4つ目は、100年の歴史の重みを感じる。市民の宝物である公園を大切にしてほしいという声でした。

以上のような答えが返ってきました。商工観光課長のご答弁をお願いしたいと思います。

6番目は、開園100周年記念は通過点について。

冒頭申し上げましたように、この間、あやめ公園100年の歴史は、長井市として誇り得る伝統であると思います。後世にも語り継ぎ、そして手を取りながらも伝えていきたいと思います。

先日、山形県の観光客数、昨年度の調査結果が一昨日の山形新聞に載っておりました。前年度比、県内で1.9%の減少ということです。これは4年連続の減少と言われます。観光客ニーズはその時代を反映し、テレビの「天地人」が置賜は前年並みとして減少を食いとめた理由と言われます。観光客の心をつかみ、離さない、それは本当に難しい。にわか細工や小手先細工はすぐにメッキがはがれることを肝に銘じなければなりません。その場はしのげても、二度目はないことを認識しなければなりません。真正直に観光客と向き合おうではないか、そのための努力を惜しんではならないと思います。

もう一つは、観光行政を確かなものにするために、根幹となる明確な方向性を示す、仮称ですが、長井市観光振興計画なるものを早急に創設すべきであると思います。観光は、行政でも現場でも、人材がどのように動くか、動かせるかであります。人事異動がリズムを変えさせる現象は否めません。この際、現場とは市民を含め観光協会と理解してください。行政の担当者が異動によって交代する、これは引き継ぎ作業であります。現場においても、担当者がかかわれば、考え方も変わるのではないかという危惧を

避けるためにも、もっと考えられることはありますが、要は市としてしっかり方向性を示すものがあれば、市民共通の認識で、長井市の観光を支えていくことができると思います。

もう1点は、現場の最先端にいる作業員からも、「これからこの公園をどうするのか、現状のままなのか、もっと誇れるものとして投資を惜しまないでほしい」といった声も聞かれました。

また、身分も確たるものがない中で、一生懸命作業に従事しておられました。安心して作業に携わってもらうにしても、資質の向上は避けて通れません。昭和64年に施行された長井市あやめ育成指導員設置条例に基づく円滑な運用こそ、健全な公園づくりにつながると思います。

最後に7番目、市民参加による公園づくり・あやめまつりであります。

このたび、多くのご意見をちょうだいし、先ほど商工観光課長にお届けしたことはご承知のとおりでございます。入園料や市民への入園券に対するご意見もありました。「ボランティアに参加してがっかりした」という声もありました。「せつかくのあやめ会館や水上ステージが生かされていないのでは」といったご意見、黙々と作業員は汗を流し、せかせかとイベントに汗を流す観光協会のスタッフ、いらっしやいませとつくり笑顔で応対する売店の人、観光客からチケットをたたきつけられたという受付のスタッフ、現場からは厳しい叱咤激励の言葉が寄せられました。子供たちが「まず、行くべえ」という興味を示さない、大人も期待感が乏しい祭りの雰囲気、「あやめまつりに最近行ったことないぜ」という照れ笑いする市民など、まだまだ多くの声が巷間ささやかれております。

市民一人一人が本当に誇りを持って守り育て、見る人の心の琴線に触れるあやめ公園づくりに、市民総ぐるみで次の100年を目指して頑張らなければならないと思います。市長の心意気をお

聞かせください。

以上で、壇上よりの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 渋谷佐輔議員のご質問にお答えいたします。

渋谷議員からは、大変耳の痛い、厳しいお話でございましたけども、逆にそういうクレームは最大の励ましの言葉だというふうに思っています、大変ありがたく感じてるところでございます。

議員の方から2点ほどのご質問の中で、私の方からは、あやめ公園の昨日・今日・明日ということで、4点でございましょうか、ご質問いただきました。お答えいたします。

まず、あやめ公園についてでございますけども、来年、公園の開園100年を迎えるということで、この100年の重みというのは、今さらながら大変重いものだなというふうに思っております。何といたしても、昭和12年に山形新聞社が主催した山形県一の史跡名所ということで選ばれたということが、やはり当時の長井町の町民の皆様始め地域の誇りとしてずっと語り継がれてきましたし、先人の残したそういった資産を私たち、今に引き継いでるわけでございますけども、正直なところ、ここ20年、平成に入ってからでありますけども、大きく観光のあり方あるいはあやめ公園の市の位置づけということが、私の個人的な考え方でありまして、変わってきたなというふうに思っております。

これ、いろいろ原因といいますか、を上げますと、いろんなものがあるわけでございますけども、まず、ちょうど平成の初めごろに、これからアヤメもなかなか時代にそぐわなくなった。新たなお祭りを創設しようということで、黒獅子まつりを創設したと。どうしても観光協会の中では、あやめまつりから、それはそれとして大切なんですけども、新たな黒獅子まつり

で多くの観光客あるいは市民の皆さんに喜んでいただくということで、どうしても分散してしまったのではないかなあと。そこをフォローできなかった市がやっぱり残念だったなあとというふうに思いますし、そこを反省しなきゃいけないというふうに思ってます。

それから、あやめまつりに限らず、長井市の観光行政については、市の方で、例えば公園管理とかそういったところについては、直接管理してるわけでございますけども、お祭り、イベント自体は観光協会の方に委託してるということで、観光協会の組織の方にも補助金を出してるわけでございます。そういったことで、どうも反省としては、言葉はあんまりよくないんですが、丸投げしてきてしまったというふうに思います。

ただし、平成の初めぐらいまでは、観光協会と商工観光課というのは机を並べておりましたので、一体感があったんじゃないかと。商工観光課の観光係と観光協会の事務局というのは一体でしたので、常に、例えばお祭りの企画運営からいろんなキャンペーンも、観光協会と市は一体で行ってきたというふうに私は理解しております。それが平成の初めぐらいから、観光協会が事務所を変ったということで、どうも意思疎通が図れなかったと、それが理由ではないんでしょうけども、そういったマイナスの部分があったのかなと思いますし、さらに最近では、長井駅の方から商工会議所の中に入ったということもあって、そののところをもう少し有機的にやはり事務局とつながなきゃいけないんじゃないかと。

加えて、観光協会の事務の職員が常勤が1名ということになってしまったということも、なかなか難しい状況だったんだろうなというふうに思っております。

一方で、例えば長井踊りというのがアヤメの一番美しい時期に町中を多くの市民の皆さんが

+

参加して行われたお祭りがあったわけです。それが実はあやめまつりのピークだったんだろな、ピークじゃないです、クライマックスですね、だったわけです。それが参加者が少ないからということで、確かに時代の趨勢がもう盆踊りじゃなくなったということもありまして、もう観光協会ではこれを維持することができないということで、中止してしまいました。これはその当時の判断が誤りだとは一概に言えませんけども、そういったことで、市民の中でも、今、あやめまつりやってるんだなということがないんですね。ですから、あやめ公園というのはやはり中央地区ですが、町の外れにある「点」でありますので、今、観光協会とか商店街が協力していただいて、いろんなのぼりを立てていただいたりして盛り上げをしていただいています。あと、桜の時期から白ツツジ、アヤメと、特に女性の会の皆様とかいろんなボランティアの皆様、地区の皆様の本当に献身的なボランティアによりまして、道沿いに美しい花を咲かせていただいているということもありますが、残念ながらあやめ公園と有機的につなげることが、やはり市としても観光協会としてもできなかったのかなあとというふうに反省してるところでございます。

そういった中で、議員から最初、冒頭ありましたように、まず公園の受付の方から「聞いてける」と言わっちゃということで、そういった意味では貴重なご意見を、やっぱり渋谷議員からおっしゃっていただいたんだと。私、ことしも4回ぐらい行きましたけども、声はかけてます。公園に行って、「ご苦労さまなっし。どうだっし」と言いますけども、やっぱり私には言いにくいんでしょうね。それは人格の差だと思いますが、残念ながらそういった声は聞こえなかったと。

やっぱり問題なのは、それをしっかりと上司にも伝えて、それが全部運営は観光協会で作

てますので、観光協会から市の方にきちんと課題を、あるいはいろんなお客様の声をしっかりと上に届けることができない今のそのお祭りの状況、これが非常に問題だなあとということで恥じてるところでございます。

そういった中で、ご質問のあった公園の持つ意義ということでありますけども、これはあやめ公園というのは長井市のシンボルでありますし、市民の誇りであるというふうに私は思っております。それが市章ということで、私もきょうしておりますが、長井市の市章はアヤメでありますんで、そこを私たち行政側あるいは市民の皆様にももっともっとアヤメということについて関心を高めていただくような取り組みをしなきゃいけないと思っております。

観光資源として見た場合は、昭和50年代ぐらいまではやっぱり団体のお客様が多かったです。渋谷議員からもありましたけども、最近は団体バスが少ない。もう団体バスそのものが少なくなってるんです。私も実は商工観光課の職員のときがちょっとありまして、そのときは、昭和の50年代でありますけども、後半でありますけども、あやめ公園から287号線、今泉まで渋滞しました。その中に大型バスがたくさんおったんですね。もう今はあやめ公園が魅力がないんじゃないかって、観光の傾向が変わってきてしまったと。

しかしながら、途中で改造はしましたけども、やはり市民向けなのかあるいは観光客向けなのか、ちょっとはっきりしない公園づくり、これはいろいろ難しいところがありますので、これ批判ばかりはできませんが、例えば飯豊のゆり園みたいに、10数億円かけて新たなところに新たな公園をつくるということと、ちょっとあやめ公園は違うと。今までのいろんな歴史とかいいところがたくさんあって、それを改造という形で変えていかなきゃいけない。しかも、時代の観光ニーズに合ったようにやっていくという

ことは、相当投資も必要ですし、なかなか人員体制とか、あと観光協会も運営はボランティアなんですよ。観光協会ですら報酬をもらってないんですよ。その方たちが長井のためということで、手弁当で時間を割いて、いろんな案を出していただいて、やっていただいているということでありますので、残念ながら反省点としては、市の方でもうちょっとしっかりとした、事前にもう既に祭りは終わりましたから、本当は8月、9月、10月ぐらいで来年どうするかって全部決めなきゃいけないんですよ、詳細にわたって。それが、現実には年度が改まってからやっていますから、ですから、必要な例えば来年100周年だということ、予算をどうするんだと、どんなお祭りにするんだということから、あるいは観光協会とか行政だけの発想ではだめだと、市民の皆さんからいろんな意見をいただけないというふうにするとしても、もう今からしなきゃいけないわけですよ。

具体的に何をやるかということを決めて、そしてそのためにどういった予算措置が必要だということを10月ぐらいまでにまとめないと、厳しい財政状況の中で、幾ら100周年といっても予算つけられないんですよ。つかみで幾らなんという予算を今つけられる状況じゃありませんので、ですから、そういった意味では、観光協会と市のもっともっと密接なかわり、そんなことから、ことし、今まで努力されてこられました中島会長さんが勇退されました。そして、観光協会の方で新たに若狭会長を選出されたので、私ども市の方から、私の個人的な意向もあったんですが、ぜひもっと一体感を進めるために、事務所は観光協会、会議所を移れないということでもありますので、平理事じゃなくて常任理事として商工観光課、三役会に入れるように、それから地場産業振興センター、観光は物産と密接に結びついておりますので、も入れさせてほしいということをお願いして、今年度

から新たな体制を臨んだところですが、ぜひ来年度からそんなことで、少しでもよくなるように、しかも100周年ですので、ことし、来年、再来年、3年計画ぐらいで公園自体も、あとお祭り自体も英知を集めて変えていくようにしてまいりたいと、市民のお力をいただきたいと思っています。

2点目の祭りの開催目的ということでございますけれども、これは先ほど申し上げましたように、市民の誇りとして、やっぱり私たちの子供や孫たちにしっかりと伝える、引き継いでいくものというのがあやめ公園だろうというふうに思っております。そして、とりもなおさずあやめ公園をご利用いただいて、市民に喜んでいただく、楽しんでいただくということが、あやめ公園のそしてお祭りの目的であろうというふうに思います。観光として有料化したわけでありまして、それは現在も公園管理でやっぱり1,000万円以上、一千数百万円かかっているわけですね。それから、お祭りとしても、観光協会に委託しております。ですから、これをよくするには、当然投資が必要です。今の長井市の財政状況で、残念ながら市民公園としてだったら、これ以上多分かけなくていいんですね。しかし、入園料をいただいて観光客に見ていただくといった場合には、いろんな投資が必要だと。しかし、それを税金で投資して、観光客を喜ばせるということではないだろうと。やはりできるだけ入園料を上げて投資するのが、本来は筋であります。しかし、思ったようにいきませんので、入園料が高いという批判はたくさんありますので、それらも踏まえていろいろ検討しなきゃいけないと思っております。

次に、開園100周年記念は通過点ではないかということでありまして、これについては、議員ご指摘のとおりでございます。ぜひ私は次の100年への再スタートの年ということで、全面的にお祭りのあり方も、あるいは公園の方は一

+

概にはできません。とりあえずは3年間の、高台もことし取得させていただきまし、また高台とご指摘の多い公園を結ぶ線がどうも分断されてしまったということでもあります。これをもとどおりにするというのはなかなか難しいんですけども、よりよい方法を今も検討してるところでございます。高台の遊具についても、年度内に公園の整備とあわせてやっていくつもりでございます。そんなことで、次に向けた再スタートとして、お祭りそのものもぜひあそこの公園内のお祭りだけじゃなくて、やっぱり町中に繰り出す、しかも一日一晩限りのお祭りじゃなくて、何とか、難しいんですけども、例えば上杉まつりも3日間やっています。こないだ終わった新庄まつりも3日間、寒河江まつりとか酒田まつりとか、そういったところ、花笠まつりもそうですけどね、やっています。長井はどれぐらいできるかですけども、やっぱり子供からお年寄りまで参加できるようなお祭りとして、しかも一日限りじゃないような、そんなお祭りができないかということも含めて、これを契機に考えてまいりたいと思います。

最後になりますけども、市民参加による公園づくり、あやめまつりということと、長井市の観光振興計画、また昭和64年の育成指導員設置条例ですね、これらについてもちょっとお話しさせていただきたいと思います。

まずは、市民参加による公園づくり、アヤメづくりというのは、もちろん議員ご指摘のとおりでございます。まずは、観光協会と行政との市との関係をもう少し綿密にやっていくということと、あと観光協会も任意団体でありますので、これを将来どういうふうにしていくかということも、これを契機に考えなきゃいけないと思ってますし、あと、来年の100周年、特にあやめ公園についていろいろ意見をいただくということももちろんですけども、こないだもちょっと教育委員会の方とも話しましたが、例

えば写生大会ってやってたですね、我々、小学生のころはアヤメの時期は必ずやってましたけど、そういったものはなかなかできない状況になってます。しかし、それをどういう形で復活するかは別として、親子で写生大会しようとか、いわゆる市民参加型のやつですね。最近、カラオケもなかなか苦情等々でできないとか、集まらないということですが、あれも市民参加の一つだったわけですね。そういったことも含めて、いろいろ検討してまいりたいと思います。

あと、観光振興計画は、ご指摘のとおりで、必要なんですが、なかなか先がちょっと展望が見えない状況であります。計画づくりの計画であってはならないと私は思っておりますので、計画をつくったからいいというじゃなくて、やっぱり中身のある、しっかりとビジョンを描けるような計画じゃないとだめだろうということで、昨年までは、実は前の観光主幹が作成に携わっておりました。もうちょっとのところでしたけども、とりあえずペンディングして、もうちょっと待って、いろんな事業が要素が絡まってくるんで、そのときつくろうということで、例えばことし、かわまちづくり支援事業ということで、最上川の桜堤を長井最上川さくら回廊とか、あるいはさくら大橋から長井橋までの河川敷を利用したフットパスももちろんでありますけども、船着き場の再現とか、そういったことと、あと今度、まちなかの観光、まちなかの観光もつい先月、宮・小桜街区のまちづくり協議会ができて、あちらの宮地区、文教の杜から小桜館、總宮神社、遍照寺、あやめ公園、そこをどうするかと。それから質上通りですね、これは船着き場であります。それと、登録有形文化財、これらについてもしっかりと会議所中心になっていろいろ頑張っていただきましたんで、どんどんふえております。

それと、きょう新聞にも載っておりましたが、やませ蔵も再開いただけると。それから、経済

再生戦略会議では、来年からぜひ市民の直売所をつくろうと、あるいは空き店舗の活用をしよう、具体的にですね。それから、まちなか歩きのいろんなことやっていこうとか、観光によるいろんな施策がだんだん具体化してきましたので、タイミング的には来年あたりからやるのがいいのかなというふうに思っています。

あと、指導員については、今の作業員が非常に優秀な作業員いますので、これらをしっかりとした身分的なものも含めてやっていかなきゃいけないなど。やっぱりアヤメの花、大変よくなりましたけど、さらに充実するように頑張りたいと思います。

長くなりまして恐縮です。どうもありがとうございました。

○町田義昭議長 遠藤正明農林課長。

○遠藤正明農林課長 お答えいたします。

私のところに対するご質問につきましては、急速なナラ枯れの対策、21年度、どのような対策が講じられているのかというようなことでございますが、本市における対策につきましては、国庫補助事業でございますナラ枯れ被害緊急対策事業によりまして、被害先端地対策として薫蒸薬剤と樹幹注入によります駆除を実施する予定でございます。対象につきましては、古代の丘バンガロー周辺区域等を検討いたしております。

本市のナラ枯れ被害につきましては、先端地域からいきなり激害地域とみなされる状況を迎えております。これにつきましては、ナラ枯れの原因でありますカシノナガキクイムシの移動距離が10キロメートルにも達するというようなことから拡大していると判断をいたしております。

今後でございますが、関係機関の指導を得ながら、枯れた木の処理を重点といたしまして、一部、薫蒸薬剤注入もあわせて取り組むというようなことを考えているところでございます。

枯れた木につきましては、時間経過とともに枝や幹が折れまして、被害、約5年目で30%以上の立ち木の根倒れが発生すると。そして、年々増加するというふうなデータでございますので、道路、歩道、公園、人家付近など、危険箇所を重点に山林所有者と協議をしながら対策に当たる必要があると思っておりますのでございます。

続きまして、県当局あるいは国当局のご見解はというようなことでございますが、現在、県と市で21年度の市内民有林の発生状況について調査いたしまして、結果につきましては、県の方で図面におろして取りまとめ作業を行っていただいているところであります。昨年につきましては200本というようなことでありましたが、ことしは西山を中心といたしまして爆発的に拡大してる状況でございます。5,000本を超える状況かと想定をいたしております。よって、今後は激害地としての対策が必要との見方でございました。対策につきましては、県単独の山形県市町村総合交付金事業が制度化されております。本事業につきましては、先ほど述べましたように、枯れた木の処理が主体でございますが、一部、被害の原因であるナラ菌及びそれを媒介するカシノナガキクイムシの駆除をあわせて行うものでございます。

次に、これは森林管理署でございますが、ご見解といったことでありますが、国の方につきましては、国有林につきましては、被害先端地対策としての薫蒸薬剤注入による駆除を実施されてきておりますが、奥山や急傾斜地につきましては、安全面の問題もございまして、駆除できなかったというようなことであります。21年度につきましては、昨年を上回る対策をご計画していただいておりますけれども、これから調査及び対策が進められると。ただ、やはり限りある予算の中で激害に対応できる状況にはないというご見解であったところであります。

+

最後に、豊かな緑が失われつつあると。里山を守る視点からの考え方でございますけれども、県の対応方針の一つといたしまして、ナラ枯れに強い健全な里山林の育成ということが掲げられています。従来、燃料用あるいはキノコのほだ木、板材などとして利用しながらやってきたわけではありますが、ナラ林の上手な若返りを図る必要があるというようなことであります。

現在におきましても、実際にペレットやキノコ栽培原料であるオガ粉生産、あるいはチップボイラーなどの取り組みが試みられているところも出てきております。また、保安林を始めといたしまして、ナラ林の果たす役割は、言うまでもなく重要であります。一般的になろうかと思いますが、やはり里山林に関心を向けまして、健全な里山林の育成を図る方法を模索し続ける必要があると思ってる次第でございます。以上でございます。

○町田義昭議長 齋藤理喜夫商工観光課長。

+ ○齋藤理喜夫商工観光課長 お答えいたします。

3番目の公園の管理課題についてでございますが、議員のご指摘の中身につきましては、特に作業員の人的なものについての例示があったかなというふうに思っております。ここ何年間か、専門の職員を、臨時職員ではありますが配置をしたと、確保したというふうなことで、栽培技術につきましてはかなり蓄積をされてきているというふうに考えてございます。ただし、先ほどありましたツツジあるいは桜祭り等の祭りがボリュームが上がってきてるというふうなことで、手がとられるというふうな状況があるというふうなことは、私も存じております。

それから、その中で、株下のマルチは見苦しいとかというふうなことがありましたんですが、そういったお客様の要望の部分に対応しようとしますと、またその部分でも人手がかかるというふうな状況になります。ボランティア活動でいいものをしてもらうというふうな形であった

としても、なかなかボランティアの皆さん方で対応してもらった方が効率的なものというふうなものが、なかなか同じ時期では難しいような状況があるというふうなことも問題としては残ってくるというふうなことでございます。

ただ、今後の考え方といたしましては、とりあえず今の中心になってる作業員の技術というふうなものを新規の作業員に早急に技術伝承をさせると。それからボランティア、それからことしなんかは企業の方のご協力もいただいたわけなんですけど、そういった方々とのタイミングのよい、あるいは効率的な形の応援体制をとっていくというふうなことをやっていかないといけないかなというふうに考えてございます。

ただ、公園の管理のハード的な部分からいいますと、例えば、あと10センチあるいは15センチぐらい客土を入れられなかったので根の張りが悪かったというふうな状況もございます。栽培管理とそれに係る土壌あるいは施肥等の財源的な部分についてのきちっとした確保が必要なんだろうというふうに考えてございます。

それから、4番のお祭りの企画運営課題についてというふうなことで何点か上がっておりますが、私といたしましては、先ほど市長がお話を申し上げたんですが、祭り自体をとにかくきちっと考えてやっていくというふうな、前作業、前段階が必要であるというふうに考えてございます。例えば、広報あるいはポスターをこのタイミングで配布をしないといけないというふうな、そのぎりぎりのタイミングでやっていくというふうなことでは、やはりなかなか難しい状況にあるというふうなことでございます。祭りの内容を企画することを通して、協会の方、それからあるいは関係する団体の方がとにかく知恵を出し合うと、一緒に祭りをつくりましょうというふうな形の取り組み方が必要であろうというふうに考えてございます。

それにつきましては、新しい観光協会の会長

さんの指示のもとに、現在、来年度に向けた事業の検討体制をつくっているというふうなことでございます。もちろんそれにつきましては、市の方も職員の方も分担して入っているというふうな形でございます。

それから、5番の課題に対して行政と観光協会の協調、連携についてというふうなことでございますが、市長の方からもお話はあったんですが、まず1つは、観光協会の中で、協会の会員の皆さん方がとにかく祭りを通して、ある意味では楽しみましょと、祭りをつくり上げましょというふうな考え方の組織をつくってきたいというふうなこと、それから市の方がどんなふうにかかわっていくかというふうな部分を考えていかないといけないだろうというふうに思っております。ある意味では、理想的な形としては、当然市の職員も入りながら企画をきちっとまとめていくというふうなこと、それから、協会の中で必ずしも難しそうな他団体等との連携といったふうな部分については、市の方を通して協力関係を図っていくというふうなことをやっていく、そういったふうな体制をとっていく必要があるだろうというふうに思っております。

来年度に向けた体制づくりをやりながら、その中で企画をお互いに検討していくというふうなことの積み重ねの中から、気持ちのつながりを持った体制、関係がつくられていくものだろうというふうにご考えてございます。

以上、不足の部分につきましては改めて質問をお願いしたいと思います。以上です。

○町田義昭議長 9番、渋谷佐輔議員。

○9番 渋谷佐輔議員 それぞれご答弁いただきまして、ありがとうございました。

市長からは、市長のあやめまつり、あやめ公園について、思いがちょっと伝わってきたなと思います。やっぱり申し上げましたように、長井市の観光が長井市の重要な部分にあるという

ことを考えれば、長井市の観光をどうするんだという、この振興計画、方向性というかね、計画ってまず必要なんじゃないかなと思いますので、じっくり検討いただきまして、将来に向けて指針となるようなものをつくっていただきたい。それについて、1点、市長は。

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 大変ありがとうございます。一生懸命これからも頑張りたいと思いますので、いろいろご指導賜りますようお願いいたします。

○町田義昭議長 9番、渋谷佐輔議員。

○9番 渋谷佐輔議員 時間も押し迫ってますので、最後をお願いというかね、申し上げたいと思います。

何年か前ですが、あやめ公園高台、改めて整備される予定になってますが、あそこを改修するとき、あその金田屋さんのばあちゃんから、「なにするんだ」と、「高台があって、あやめ公園だべ」というようなことでひどくおしかりを受けた記憶を今でも思い出します。そして、今回また整備しようという、手を加えようという、後々あれは間違っちゃった、今度はこうすべというふうなことはないように、公園整備というものに力を注いでもらいたいなあと思っております。

詳しい、聞こえてきたことの細々としたことについて、もう少し、もうちょっと時間あればなと思ったんですけど、機会があったらまた議論させていただきますとお願い申し上げまして、質問を終わります。ありがとうございました。

○町田義昭議長 ここで、昼食のため暫時休憩いたします。再開は午後1時といたします。

午前11時58分 休憩

午後1時00分 再開